

覺勝寺だより

慈光照護のもと、門徒各位におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。
平素は、覺勝寺護持運営にあたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

今年の桜の開花は例年より早く、春の訪れも早いように感じます。田んぼでは田植えの準備が着々と進んでおり、青々とした水面の風景がもうすぐ見られることでしょう。



さて、四月十一日(日)に実施しました今年最初の班別清掃(三・四班)には、十一名の門徒の皆様にご協力いただき、ありがとうございました。

また、五月は宗祖降誕会を勤修いたしますので、ご参拝いただきますようお願いいたします。

合掌

第三回総代会報告事項

一、宗祖降誕会について

宗祖降誕会は、五月十六日(日)に勤修します。新型コロナウイルス感染症防止を考慮し、二部制で実施しますので、ご了解をお願いいたします。

二、寺院活動行事保険について

令和二年度より加入している寺院活動行事保険について、昨年度の利用実績はありませんが、令和三年度も引き続き加入することとし、寺院行事中に起こるけが等の補償とします。

宗祖降誕会の勤修

一、日時

五月十六日(日)

十三時三十分から

(七班・十班・他所)

十五時から

(一班・六班)

一、勤行 正信偈

一、法話

正光寺住職(愛荘町)

安孫子義昭師

※年番の方は、法要準備のため、十時に全員集合をお願いします。また、終了後後始末のお手伝いもよろしく願います。

定例法座開催

四月十一日(日)に開催しました定例法座には、十八名の門徒の皆様にお参りいただきました。田中住職代務による讚仏偈の勤行の後、法話を拝聴しました。

親鸞聖人は、自分の事を愚禿釈親鸞(「ぐとく」とは、愚かな者、中身の伴わない者)と名告り、非僧非俗(「非僧」とは、国家権力によって認められた僧侶ではないこと、「非俗」とは、世俗の権威にひれ伏して生きる凡夫ではないこと)と言われました。これは、仏の教えに照らされて明らかになった、偽らざる親鸞聖人の姿であったと思われれます。南無阿弥陀仏。



覺勝寺各種団体

覺勝寺各種団体の役員紹介

【仏教壮年会】

会長 三班(五組) 堀居孝至さん

副会長 二班(四組) 小菅徳人さん

【仏教婦人会】

会長 五班(八組) 西村幸子さん

【覺友会】

世話係

二班(四組) 遠崎勝啓さん

四班(六組) 西崎勝己さん

一年間よろしく願います。

庫裏の改修について、業者の準備が整い次第、順次作業を進めて行かれますので、お寺の出入り等について、ご注意いただきますようお願いいたします。

覺勝寺行事予定

◎宗祖降誕会

五月十六日(日)

十三時三十分から

十五時から

滋賀教区・犬上組 行事予定

○犬上組門徒総代会

五月十三日(木) 十三時三十分

行願寺(犬方町)



浄土真宗 本願寺派
圓鏡山 覺勝寺
彦根市開出今町 258

田中康勝住職代務 連絡先
本光寺 彦根市八坂町 1318
TEL&FAX: 28-0572

《総代連絡先》
北川善雄 25-0660
尾本 博 28-1436 西崎文雄 28-8104

ご恩報謝とは恩を返すことではなく ご恩を無駄にせぬことである

小山法城

お釈迦様が御在世の時、お弟子の中に着物や食べ物を粗末にする人がいました。その姿勢を見かねたお釈迦様は、そのお弟子に着物を脱がせて町を歩かせます。町の人から笑われるお弟子にお釈迦様は、「今は、服を返せない。これをお前にやるから着物を作りなさい」と言って、綿の花を一束お渡しになりました。

お弟子はそれをつくづく眺めて「お釈迦様、私は魔法使いではありません。とても綿から着物は作れません」と申しました。その時お釈迦さまは、綿から着物が出来るまでの事を、そしてお米が出来るまでのお百姓さん達のご苦勞もお話になりました。

「私たちが毎日暮らしていくには、着物を作る人や、お百姓さん、その他いろいろな人のお蔭を受けているのだ。その人たちのご恩を忘れたり、その人たちのお蔭で出来た物を、決して粗末にしてはなりません。」とお戒めになりました。

(このお話は、こどものための仏教ハンドブックより抜粋・要約)

なぜこのお弟子は物を粗末にしていたのかというと、様々なお蔭を受けて生きている事のご恩を忘れていたという事が原因でした。

そこでお釈迦様は着物が作られ、お米が作られる詳細をお話になったのです。もしかするとこのお弟子は、着物やお米が様々な人と時間を要して作られることを本当に知らなかったのかも知れません。その様なお弟子に対してお釈迦様は「知らせる」そして「気付かせる」という方法で諭されたのです。

私達も同じように教えられないと、知らされないと分からないということが沢山あります。

ご恩報謝の「報」の字は「おくいる（報復、報酬）」という意味と、「しらせる（報道、報告）」という二つの意味があります。

いただいているご恩に対して報いていこう、何かお返しをしたいという心は大切です。しかし、ご恩報謝の「ご恩」とは、ただただ如来さまから頂戴ちょうだいするのみですから、お返しできるものではありません。私達が出来るとは、自らがみづかお念仏のおこころを頂き、他の人に知らせ伝えていくことではないでしょうか。

** 小山法城 **

愛荘町東出 正光寺より和歌山県本弘寺へ入寺して住職を勤め、本願寺勧学(和上)として活躍、多くの著書あり。佐々木鐵城和上の実弟。